第３回能登半島地震復興支援県民本部会議

日時：令和６年６月 21 日 14 時～14 時 45 分
場所：災害対策本部室

１　開会

２　議事

(1) 県による支援活動について

(2) 構成員による支援活動について

ア　支援活動の実績について

イ　今後の支援活動について

(3) 地震防災対策アクションプラン（仮称）について

(4) その他

３　閉会

資料1

令和６年能登半島地震に伴う県内影響及び被災地支援について

令和６年６月 19 日(水)15:00 現在
危機管理防災課

1　地震の概要

発生日時	令和６年１月１日（月）16 時 10 分頃
マグニチュード	７．６
発生場所	石川県能登地方　深さ：16km
県内の震度	震度５弱　　３市町村（長野市、信濃町、栄村） 震度４　　10 市６町６村 震度３　　41 市町村
各地の震度	震度７　　石川県輪島市、志賀町 ６強　　石川県七尾市、珠洲市、穴水町、能登町 ６弱　　新潟県長岡市、石川県中能登町

2　長野県の体制

体　　制	１月１日（月）　16 時 10 分　警戒連絡会議　設置 １月５日（金）　能登半島地震 長野県災害対策支援本部　設置 （※　災害対策支援本部設置に伴い警戒連絡会議廃止） ２月６日（火）　能登半島地震復興支援県民本部に改組

3　県内の主な被害状況

人的・住家被害	人的被害：なし　住家被害：長野市 一部破損 14 棟、松本市 一部破損１棟 佐久市 一部破損 １棟、小谷村 一部破損４棟

4　被災地支援

(1)　緊急対策（救助・救出・救援）

支援内容	支 援 先	支援期間
緊急消防援助隊（航空）　：　延べ 30 名 （陸上）　：　延べ 558 隊 1,983 名	小松空港 珠 洲 市	1/1　～ 1/9 1/9　～ 1/22
長野県警察災害派遣隊　：　延べ 2,917 名	石川県内	1/1　～
ドクターヘリ	〃	1/2、5、11、14
長野県 DMAT（災害派遣医療チーム）　：　49 チーム 長野県 DMAT ロジスティックチーム　：　２名	〃	1/2　～ 2/14
長野県 DPAT（災害派遣精神医療チーム）：　２チーム	〃	1/5　～ 2/10

(2)　避難所等支援

支援内容	支 援 先	支援期間
応援給水（県企業局含む 25 事業体）	石川県内	1/2　～ 5/11
キッチンカーによる避難所への食事提供　：　８事業者	輪 島 市	2/1　～ 2/12
物資支援 飲料水　：　500ml・24,216 本、２L・558 本 アルファ化米：　9,100 食 ブルーシート：　4,241 枚、簡易トイレ：　5,000 袋　など ※　この他、県社協のとりまとめによる物資支援あり	羽 咋 市 輪 島 市 七 尾 市 中能登町	1/2　～ 提供：長野県 ２市

(3)　人的支援

支援内容	支 援 先	支援期間
応急危険度判定士（建築士、県・市職員）　：　延べ 228 名	石川県内	1/4　～ 1/21
被災宅地危険度判定士（県・市職員）　：　延べ　27 名	内 灘 町	2/13 ～ 2/21
下水道復旧支援調整隊(国交省)へ同行 （県職員）　：　延べ 204 名	石川県内	1/5　～ 4/12
下水道管渠の被害状況調査（県・市町村職員） 一次調査：　延べ 170 名、二次調査：　延べ 376 名	〃	1/8　～ 4/6
上水道調査復旧作業（市町村職員）　：　延べ　76 名	七 尾 市	2/8　～ 2/29
災害廃棄物処理業務（市村・組合職員）　：　延べ　196 名	七 尾 市 志 賀 町	1/13 ～ 3/31
	七 尾 市 穴 水 町	4/21 ～ 6/8
治山施設及び山地災害危険地区等の被害状況調査 （県職員）　：　延べ　25 名	輪 島 市	2/5　～ 2/29
浄化槽の被害申請等受付業務（市町村職員）　：　延べ　14 名	輪 島 市	5/12 ～ 5/18
保健師等（県・市職員）　：　延べ 405 名	金 沢 市 小 松 市	1/9　～ 3/8
長野県 DWAT（災害派遣福祉チーム） 先遣隊：　延べ 18 名、災福ネットチーム　：　延べ 568 名	能 登 町	1/8　～ 3/30
生活福祉資金貸付業務 （長野県社会福祉協議会職員）：　延べ　８名	志 賀 町	1/30 ～ 2/2
獣医師（県職員）　：　延べ　４名	石川県内	3/18 ～ 3/24
長野県合同災害支援チーム（チームながの）		
リエゾン(情報連絡員)（県職員）　：　延べ 199 名	羽 咋 市	1/5　～　5/31
避難所支援業務等（県職員）　：　延べ 368 名	〃	1/6　～　5/31
災害により発生したごみの受入れ業務 （市町村職員）　：　延べ 544 名	〃	1/11 ～ 3/17
住家被害認定調査・罹災証明書発行に係る窓口支援業務 （市町村職員）　：　延べ 1,327 名	〃	1/14 ～　5/31
支援物資調整・避難所支援業務等（県職員）：延べ 978 名	輪 島 市	1/8　～　5/31
住家被害認定調査・避難所支援業務 （市町村職員）　：延べ 1,707 名	〃	1/14 ～　5/31
総括支援チーム（県・長野市職員）　：　延べ　16 名	〃	1/14 ～ 1/21

(4)　被災者の受入れ

内容	受入対象者	受付期間
公営住宅等の提供（254 戸）	能登半島地震により居住継続が困難となった方	当面の間、延長(当初:3 月 29 日(金)まで)
被災者の受入れ可能な県内宿泊施設数 6/14 15 時現在：　179 施設 3,109 名	珠洲市、輪島市、能登町、穴水町、七尾市、志賀町　にお住まいで被災された方	―

(5)　その他

支援内容	支　援　先	支援期間等
災害義援金の受付	被　災　県	1/5　～ 12/27
（公財）長野県みらい基金 被災地でのボランティア活動、被災地への支援をコーディネートする活動等への緊急助成	主たる事務所等の所在地が県内にあるＮＰＯ・ボランティア団体等の非営利団体	（申請受付期間） 1/29 ～ 2/20

能登半島地震に係る長野県合同災害支援チームの活動について

羽咋市

1　避難所支援　（１月６日～３月３日）

羽咋市すこやかセンター内に設置された避難所において、避難者のケア・入退所手続等に従事

延従事人数：　129人（県）

2　廃棄物受入　（１月11日～３月17日）

羽咋市運動公園駐車場において、廃棄物運搬車両の交通誘導・積み下ろし補助業務に従事

延従事人数：　544人（市）

3　被害認定調査（１月14日～５月31日）

羽咋市内の破損した住宅に係る被害認定調査（１次、２次）、罹災証明の受付業務等に従事

延従事人数：　1,566人（県・市）

避難所運営

廃棄物受入

被害認定調査

○ **延2,438名が活動**(リエゾン含む)

輪島市

1　物資調整　（１月13日～１月26日）

輪島市に搬入された支援物資の提供が可能となるよう、分別のうえ文化会館・マリンタウンにおいて管理

延従事人数：　26人（県）

2　避難所運営　（１月13日～５月31日）

輪島高校において、24時間体制で避難者のケアに当たるとともに、避難所の環境改善に向けた活動を実施

延従事人数：1,994人（県・市）

3　被害認定調査（４月12日～５月31日）

輪島市内の破損した住宅に係る被害認定調査（１次、２次）等に従事

延従事人数：408 人（県・市）

物資調整

避難所運営

被害認定調査

○ **延2,701名が活動**(リエゾン等含む)

信州から能登へ
あたたかなボランティアの力を

大規模災害ボランティア活動応援助成など

チームうるし（3月中旬、輪島市）

須坂市社協ボラ・バン（4月上旬、能登町）

連合長野、安曇野市社協ボラ・バン（4月中旬、能登町）

災害ボランティア 30団体に助成、のべ1,200人が参加

大規模災害ボランティア活動応援助成は、令和元年台風第19号災害を機に、長野県の補助を受けてスタートした長野県社協による助成制度。能登半島地震では、災害ボランティア活動に参加する県内グループ 30 団体に交通費や宿泊費、400 万円余りを助成しています。（令和6年5月末現在）

赤い羽根「ボラサポ」助成を受けて、多様な団体・企業の活動を促進

長野県社協では、赤い羽根「ボラサポ（長中期）」助成を受けて、多様な技術やノウハウを持つ団体・企業の支援活動を促進しています。

1月下旬、長野県介護福祉士会を主体とする奥能登入浴支援プロジェクトがスタート。2月からは、能登町の農家民宿群「春蘭の里」の営業再開を支援。多くのボランティアが宿泊しています。

また、3月には、災害ボランティアセンター（輪島市、能登町）の活動の本格化に備え、能登半島地震復興支援県民本部から 10 台の軽トラを現地（輪島市、能登町）に届けました。5月からは、県内の㈱竹内製作所の重機を活用したボランティアプロジェクトの活動を調整する等、多様な団体・企業の活動を促進しています。

助成金情報

大規模災害ボランティア活動応援助成

あの時の「恩返し」の意味を込めて、信州から能登へ沢山のボランティアの力を届けませんか。

応援助成は、現在も、随時受付中です。
ぜひご活用下さい！

赤い羽根ボラサポ

連合長野緊急助成（第2期）

奥能登入浴支援プロジェクト
（県介護福祉士など、輪島市ほか、2月）

農家民宿群「春蘭の里」の再開に向け、建築士が同行して修繕について助言

軽トラプロジェクト
（復興支援本部など、輪島市、能登町、1月～）
※写真は3月

竹内製作所の重機を活かした支援活動をコーディネート

信州から能登へ　ボランティアの力を！

長野県社協 まちづくりボランティアセンター　電話 026-226-1882　vcenter@nsyakyo.or.jp

■ 被災地の復旧のため、ボランティアの力が求められています。

・ **個人でのボランティア参加**
⇒ 石川県ホームページから、ボランティア登録してください。
https://prefvc-ishikawa.jimdofree.com/

■石川県能登町への「ボラ・バン(6月～7月分)」の企画を募集しています！
日程予約や助成金申請は、お近くの市町村社協にご相談ください。

能登町では、長野県内社協職員が災害ボランティアセンターを支援したご縁から、長野県内からの団体ボランティアが多数応援に駆けつけています。

活動場所：石川県能登町災害ボランティアセンター
企画方法：ボランティア・バンの企画主体は、市町村社協、ボランティア団体、有志グループなど問いません。
活動日　：６月、７月の平日（月、木、金）※火・水はセンター休止
予約方法：お住いの市町村社協にご相談ください。市町村社協と県社協が連携して、現地の受入状況をふまえて日程調整を行います。
日程調整のうえで、ボランティア募集を行ってください。
募集人数：当面、１日１～２団体（５名～１５名程度）で計画してください。
※マイクロバス、ロングバン等、軽トラ随行は大歓迎
活動助成：長野県大規模災害ボランティア活動応援助成をご活用ください（旅費、宿泊費等）
※詳細は本会ホームページを参照ください（https://www.nsyakyo.or.jp/）

■ 能登地域での宿泊のご案内

・ 能登町宮地の「春蘭の里」(交流宿泊所こぶし＋農家民宿群)に宿泊することで、地域の復興を応援してください。
→ 素泊まり 4,400 円から
・ 能登町災害VCサテライトまで車で25分。輪島市VCまで約 40 分、珠洲市VCまで約 50 分
・ お問合せは、名鉄観光長野営業所(026-244-8557、原様)
メール　　noto-syukuhaku@mwt.co.jp

「避難所での介護、もう限界…」

外部支援で福祉避難所を開設

長野県DWAT（災害派遣福祉チーム）

石川県の要請を受け、能登町に183人を派遣

長野県DWATは令和元年9月に結成。翌月台風第19号災害に対応して避難所支援を実施しました。

能登半島地震に際しては、石川県の要請を受けて、1月8日から能登町の避難所支援を開始。1月は、5名体制（移動含めて4泊5日）、2月からは7名～9名体制で派遣を実施。3月30日までの83日間、183人、のべ929人(実働586人)の福祉専門職が支援に入りました。

「避難所での介護負担」が限界に…福祉避難所を設置

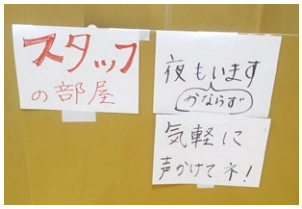
能登町は、人口約15,000人、高齢化率50%超の海と山の自然のもと独自の生活文化を育む町です。能登半島地震の発生で、3,000人を超える人が町の内60か所を超える避難所に分散避難。各避難所では、高齢者等の介護や見守りを避難者同士で行っていましたが、徐々に負担感が増していきました。

町の指定福祉避難所となっていた5つの高齢者施設等は、ハード・ソフトの両面で被災していたため受入れができず、また、町を離れる広域避難には、「行きたくない」「行けない」「判断がつかない」という高齢者が少なくありませんでした。

福祉避難所の開設へ

長野県DWATは、能登町からの要請を受けて、同町地域交流センターにテントや段ボールベッドを持ち込み、福祉避難所を設置。医療や保健チームと連携して町内に広がる避難所から、福祉避難所で過ごす必要がある要支援者を抽出。1月19日から受入れを開始しました。

水道、トイレ、お風呂が使えない中での介護のため、福祉・介護専門職が様々な工夫をし、また、寒さ対策、感染症対策などには医療チームとも連携して注意を払い、1月下旬から3月中旬まで、認知症傾向のある高齢者など1日平均約15名の介護を昼夜に渡って支えました。



トレーラーハウスで滞在拠点を整備

支援者は、トレーラーハウスの設置で安全な滞在拠点を確保。キャンピングカーや移動用車両の提供など、多くの企業や県民の皆様からのご支援をいただき、事故もなく83日間の派遣を遂行することができました。

能登半島地震の被災地、そして能登町の一日も早い復興を祈念しつつ、この経験を、地理風土の共通点が多い信州の防災福祉に役立てていきたいと考えています。

長野県災害福祉広域支援ネットワーク協議会
電話 026-226-1882（県社協内）

ちいきと
あなたと
ともに暮らす

災害ボランティアと被災地支援の経験から
災害時も平時も助け合える地域づくりを

福祉の現場で活躍するスタッフをご紹介

上田市社会福祉協議会 上田地区センター
地域福祉推進課 地域福祉係 兼
上田ボランティア地域活動センター
主事 太田 紗久也（おおた さくや）さん

学生時代に上田市で令和元年度台風第 19 号で災害のボランティア活動に参加し、現在は上田市社協で地域福祉の業務に励む太田紗久也さん。令和 6 年能登半島地震では災害ボランティアセンター運営支援チーム「DSAT」の一員として活動し、次代を担う若手職員として成長しています。

長野県内社協DSATの活動を通じ、被災地に寄り添う

1 2 5月に行われた「DSAT基礎研修」では、能登半島地震での活動報告を発表した太田さん。研修では、ほかにも様々なDSATの活動が紹介され、参加者はフェーズに応じた支援を学んだ。
3 4 「多少でも被災地の力になり、その経験を上田市の災害時に生かしたい」との思いでDSATに加わった太田さん。「昔は人に話しかけることが苦手だったが、災害支援を通じて成長した」と話す。

能登半島地震の支援に参加

近年、全国で地震や風水害などが頻発し、被災地の社協が中心となって災害ボランティアセンターを開設することが多くなっています。また、各地の社協から応援職員が派遣され、ボランティアのコーディネートなど幅広い被災地支援が行われています。

長野県では災害発生に備え、専門の研修を受講した県社協や市町村社協の職員による長野県内社協DSATを設置。発災時は被災地に赴き、情報収集や被災地社協等との連携、災害ボランティアセンター開設の支援などに取り組んでいます。実際、今年元日に発生した令和6年能登半島地震でもDSATが派遣され、太田さんはその一員として、4月から5月にかけて2回、被災地で支援活動を展開。前任者からの業務の引き継ぎや現地調査、ニーズの把握などを行いました。

「地元社協の職員も被災者なので、気持ちに寄り添いながらも、あくまで応援という立場で意見を聞きつつ、地元主体でボランティア活動が展開されるよう意識しました。また、地元住民との関係づくりを大切に、被災者の状況や体調などを気遣いながらボランティアニーズの把握に努めました」

こうした被災者に寄り添う支援は、実際に太田さんが学生時代、令和元年度台風第19号で災害ボランティア活動に取り組んだ経験が生きていると話します。

災害ボランティアの経験を原点として

台風第19号災害の際、上田市の長野大学で福祉を学んでいた太田さん。当時、アパートから避難所だった同大学体育館に自主避難し、学生ボランティアグループで災害支援に取り組みました。その縁もあり、現在は上田市社協に勤務。能登半島地震では同市社協の業務としてDSATに加わりました。

「被災地では短時間の滞在ながらも、地元の社協職員と今後の助け合いにつながる関係づくりができたと感じています。ただ、私が被災地に行ったのは発災3カ月後。発生直後の支援は経験していないので、今後はより多くの研修や活動に参加し、初動対応や災害ボランティアセンターの拠点設置、サテライトづくりなども学びたいです」

通常業務では、地域福祉のほか、市ボランティア地域活動センターの業務も担い、地元ボランティア団体の活動を支援するなど、地域住民との関係性も大切にする太田さん。同時に、学生時代から取り組む子ども食堂のボランティアも継続するなど、運営側と参加側、両方に携わることで、日頃から助け合える地域づくりを目指し成長中です。

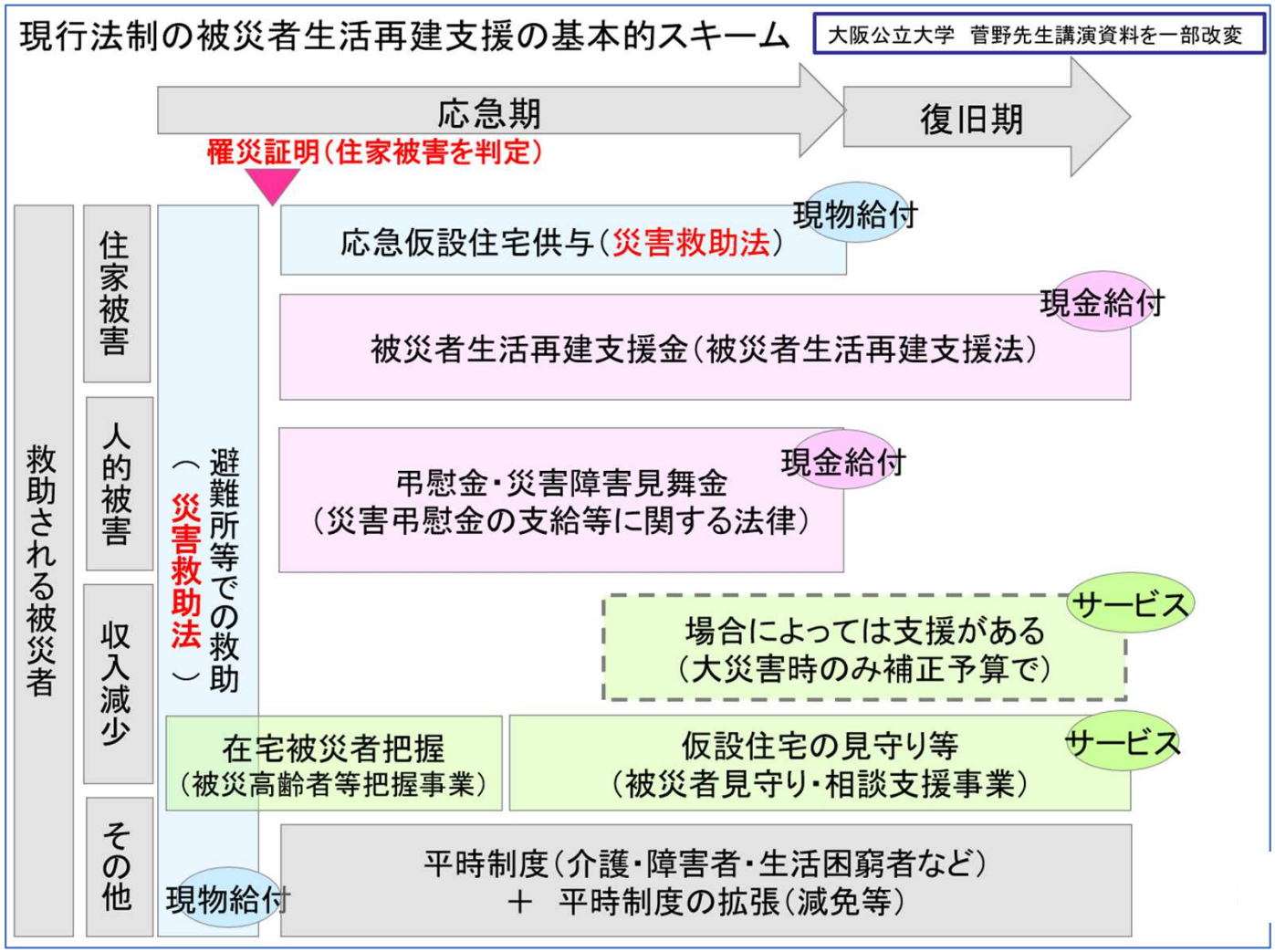
上田市社会福祉協議会
【住　所】上田市中央3-5-1
【電話番号】0268-27-2025
https://www.ueda-shakyo.or.jp/
ホームページ

資料3

非営利活動法人　長野県NPOセンター
（長野県災害時支援ネットワーク事務局）

能登半島地震の被災者が直面している深刻な課題

1　住家被害の再調査
2　応急仮設住宅の建設・入居、あらたなコミュニティの形成
3　公費解体の促進・災害廃棄物の処理、住宅の再建
4　災害関連死・孤独死の防止



被災者支援の課題：石川県には県域で支援活動を行う災害中間支援組織がない

1　災害中間支援組織の不存在による影響

- 行政だけでなく、民間側での調整役が必要
  ※調整：家電支援、被災者の把握事業、避難所訪問、県や内閣府との調整も含む。
- 他地域の災害中間支援組織からの受援体制の確立
- 都道府県域主導で市町の情報共有会議を行い、応援組織が市町の情報共有会議をサポートする仕組みづくり。
- 災害の全体像の共有（行政・社協・NPO等で把握している情報の集約など）と全体目標の構築
- 民間の活動資金の確保（応援派遣の仕組みを動かすための資金）

2　JVOADが受けた、石川県、石川県社協、内閣府からの依頼

- 支援団体情報（団体数、活動内容、信頼性に値するか）
- 過去事例、制度運用、NPO活動の過去事例の提示
- 現場情報、被災地の公費解体、食事支援
- 県域の災害中間支援組織の構築
- 災害ボランティア活動の支援（高速道路無料化に伴う対応など）
- 2次避難者の相談会の企画、運営 住民との接点を作るヘルプ
- 1．5次避難所の設置
- 避難所支援等の専門性のある支援団体の紹介

3　JVOADが受けたNPO、直接支援団体からの依頼

- 情報発信（被災地の現状、各団体の活動内容、イベントなど）
- 国、県への働きかけ→食事の改善、廃棄物の受入れ
- 他市町の情報提供
- 制度情報・助成金情報の提供、企業からの申し出の情報
- 支援の呼びかけ（個人ボランティア以外）

全国の災害中間支援組織（令和5年6月現在）

出典：JVOAD会議資料を一部改変

資料4

連合長野　報告

1．派遣期間　3 月 4 日～26 日

	期　間	人数	
先遣①	3 月 4 日～6 日	2	
先遣②	4 月 1 日～5 日	4	
第 1 陣	4 月 8 日～12 日	3	
第 2 陣	4 月 15 日～19 日	5	
第 3 陣	4 月 22 日～26 日	7	

2．連合石川訪問

4 月 4 日、根橋会長が連合石川を訪問し、長野県復興支援県民会議の活動と現地の状況について懇談。

３．現地での活動

４．今後の連携

2024 年 5 月 14 日（火）

「令和6年能登半島地震」
連合災害関連ニュース №9

発行：連合「令和 6 年能登半島地震対策本部」

「令和 6 年能登半島地震」への支援について、3 月からスタートした「連合救援ボランティア」は、これまで構成組織、地方連合会から延べ 895 名の方にご協力をいただきました。

◆「連合救援ボランティア」第8クールから40名体制へ！

5月12日より、珠洲ボランティアセンターへの派遣人数をこれまでの20名から40名体制に拡大し、引き続き、被災者の方々へのニーズ調査を行っていきます。活動にあたっては、健康に留意し、安全最優先でお願いいたします。

さらに被災された方々からのご要望などがあれば、連合事務局にお寄せください。連合としてお手伝いできるものがあれば対応し、難しければ県や市への要請や連携を進めていきます。

▲第8クールのみなさん

▲出発前の様子

◆新潟県に「義援金」として2000万円（目録）を贈呈しました

5月13日、芳野会長、連合新潟・小林会長、桑原事務局長が花角新潟県知事を訪問し、全国の組合員のみなさんからお預かりしたカンパ金から2000万円（目録）を、被災された方々に直接届く「義援金」として手渡しました。

芳野会長は構成組織や地方連合会とともに取り組んだ緊急カンパや連合救援ボランティアに触れた上で、「被災された皆様に改めてお見舞い申し上げる。全国の仲間からの気持ちが込められているので、被災者に寄り添った活動にお使いいただきたい」

と述べ、義援金を贈呈しました。詳細は、連合ニュースをご覧ください。

▲花角知事に義援金目録を贈呈

▲花角知事との意見交換の様子

https://www.jtuc-rengo.or.jp/news/news_detail.php?id=2110

全国のみなさん、ぜひ力をお貸しください。全力で被災地を支援しましょう！

★「令和6年能登半島地震対策本部」事務局★
総合運動推進局・北野、連帯活動局・杉山
電話:03-5295-0513 FAX:03-5295-0547 メール:rentai@sv.rengo-net.or.jp

2024 年 5 月 21 日（火）

「令和6年能登半島地震」
連合災害関連ニュース №10

発行：連合「令和 6 年能登半島地震対策本部」

「令和 6 年能登半島地震」への支援について、3 月からスタートした「連合救援ボランティアは第 9 クールを迎え、これまでの珠洲市に加え、輪島市での活動を開始しています。

また、皆さまからいただきました救援カンパ金を福井県に義援金としてお渡ししました。

◆「連合救援ボランティア」第9クールからは珠洲、輪島へ！

5月19日より、2チームに分かれて、珠洲市、輪島市において、ガレキや家財などの運び出し・片付けを行っています。引き続き、安全最優先で珠洲市、輪島市の両ボランティアセンターと連携しながら活動に取り組んでいきます。

さらに被災地で被災された方からの要望や要請があれば、連合事務局にお寄せください。連合としてお手伝いできるものがあれば対応し、難しければ県や市への要請や連携を進めていきます。

▲第9クールのみなさん

▲輪島市の様子

◆福井県に「義援金」として500万円（目録）を贈呈しました

5月15日、芳野会長、連合福井・矢野会長、橋岡事務局長が福井県庁を訪問し、中村副知事に対し、全国の組合員のみなさんからお預かりしたカンパ金から500万円（目録）を、被災された方々に直接届く「義援金」として手渡しました。

▲中村副知事に義援金目録を贈呈

芳野会長は構成組織や地方連合会とともに取り組んだ緊急カンパや連合救援ボランティアに触れた上で、「ぜひ私たちの気持ちを復旧・復興に役立てていただきたい」と述べ、義援金を贈呈しました。詳細は、連合ニュースをご覧ください。

https://www.jtuc-rengo.or.jp/news/news_detail.php?id=2114

全国のみなさん、ぜひ力をお貸しください。全力で被災地を支援しましょう！

★「令和6年能登半島地震対策本部」事務局★
総合運動推進局・北野、連帯活動局・杉山
電話:03-5295-0513 FAX:03-5295-0547 メール:rentai@sv.rengo-net.or.jp

はたらくのそばで、ともに歩む
連合

2024 年 6 月 13 日（木）

「令和6年能登半島地震」
連合災害関連ニュース No.11

発行：連合「令和 6 年能登半島地震対策本部」

「令和 6 年能登半島地震」への支援について、「『令和 6 年能登半島地震』女性・子どもプロジェクト」の一環として、羽咋市社会福祉協議会に子ども用防災ヘルメットを贈呈しました。

また 3 月からスタートした「連合救援ボランティア」は、第 12 クールを迎え、珠洲市と輪島市で活動をしています。

◆「令和6年能登半島地震」女性・子どもプロジェクト

6 月 12 日、芳野会長、連合石川・小水事務局長、南副事務局長が羽咋市社会福祉協議会を訪問し、松田会長に子ども用防災ヘルメットを手渡しました。子ども用防災ヘルメットの贈呈は、「『令和 6 年能登半島地震』女性・子どもプロジェクト」（災害関連ニュース No.7 参照）の一環として取り組んだものです。

ヘルメットは、放課後児童クラブで活用いただくべく、羽咋市をはじめとする市町（能登町・志賀町・輪島市・珠洲市・穴水町・羽咋市・中能登町・宝達志水町）にお贈りします。

松田会長からは、「余震が続く中、この地域はさまざまな断層があり、今後どのような地震が起きるか分からない。不安な状況が続いている。そのようなときに、子ども達の安全な避難のための防災ヘルメットをお贈りいただけたことは大変ありがたい。職員一同大変喜んでいる。これからもこうした取り組みを進めていただきたい」と謝意が述べられました。

また上記市町には、フード連合のご協力のもと、お菓子もお送りしています。各市町より、放課後児童クラブにお配りいただきました。詳細は、連合ニュースをご覧ください。

芳野会長と松田・羽咋市社会福祉協議会会長

フード連合でのお菓子の梱包作業

https://www.jtuc-rengo.or.jp/news/news_detail.php?id=2128
連合ニュース「能登の被災地に子ども用防災ヘルメットを贈呈」

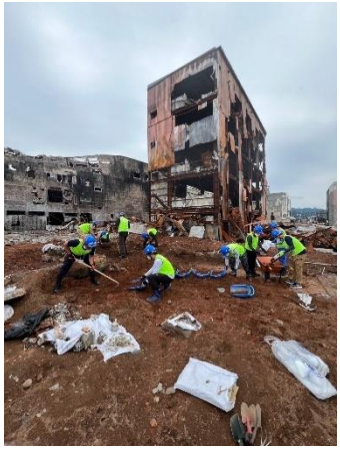
また先日、連合本部事務局で「防犯ブザーと笛」2000 個にユニオニオンのシールを貼り、現地にお届けしました。

シール貼りの様子

清水事務局長も一緒にシール貼り

◆連合救援ボランティアは、延べ約1800名に！

3月からスタートした「連合救援ボランティア」も第12クールまできました。これまでボランティアに参加してくださった組合員の方々は、延べ約1800名になりました。ボランティアは、珠洲市と輪島市に分かれて、瓦礫の撤去や家財の運び出し、ニーズ調査などを行っています。



全国のみなさん、ぜひ力をお貸しください。全力で被災地を支援しましょう！

★「令和6年能登半島地震対策本部」事務局★
総合運動推進局・北野、連帯活動局・杉山
電話:03-5295-0513 FAX:03-5295-0547 メール:rentai@sv.rengo-net.or.jp

資料5

ライオンズクラブ国際協会334-E地区(長野県)能登半島地震支援状況

2024/3/26

ライオンズクラブ334-D地区(富山、石川、福井県)と速やかに連携して支援活動を行って来ました。
長野県内レオクラブも参加していしかわ総合スポーツセンターにて炊出しを行いました。
同日も金沢市レオクラブも合同にてお手伝い頂きました

ライオンズクラブ国際協会基金にて購入した厨房機器を利用して信州そば、山菜おこわ、等々現地にて振る舞いました。
コーヒー、和菓子など約250人ほど提供致しました

沢山の方々から信州そばは初めてと喜んで頂きました

2024/3/1	長野県ライオンズクラブの有志参加していしかわスポーツセンター炊出し(45名)
2024/3/14	長野りんどうライオンズクラブ有志のメンバーで珠洲市役所にて炊出し(5名)
2024/3/26	レオクラブ中心にいしかわスポーツセンター炊出し(50名)
2024/4/6	岡谷ライオンズクラブいしかわスポーツセンター炊出し義援金贈呈(18名) 新竹市中央LCより120万円贈呈
2024/4/14	長野りんどうライオンズクラブ有志のメンバーで珠洲市役所にて炊出し(5名)
2024/6/3	長野りんどうライオンズクラブ有志のメンバーで珠洲市役所にて炊出し(6名)

長野りんどうライオンズクラブ能登支援　　2024/6/3

被災された市民が避難地より珠洲市役所に
申請等で訪れた際にほっと一息ついて
頂ければと思いコーヒーや和菓子
野沢菜漬けりんごジュース等々の炊出しを
行っております

全国各地自治体から応援に来ている職員も
コンビニエンスストアが機能していない為
入れたてのコーヒーが久しぶりですと
好評頂いております
市長も必ず寄って頂いております

小学生の集団登校集合場所に指定されて
いる珠洲市役所約20以上の子供たちも
果物やジュースに大喜び付き添いの先生も
思わず朝からのサプライズに感激して
頂きました

資料6

令和６年６月２１日

能登半島地震被災事業者支援への職員応援派遣について

長野県商工会連合会

１　概要

能登半島地震による被災地商工会等を支援するため、全国商工会連合会が令和６年２月１９日から各都道府県連を通じて商工会経営指導員等による派遣支援を実施している。

６月末までに第５次派遣が実施され、全国の商工会・県連から毎週１０名前後の経営指導員等が派遣先の石川県内各商工会や支援センターで被災事業者支援を行っている。

なお、長野県から以下のとおり６月末までに延べ１１名（予定含む）を派遣した。

２　長野県連および商工会からの職員派遣状況

回	派遣月	派遣人数	派遣先
第１次	２月	県連職員２名	門前町商工会、富来商工会
第２次	３月	県連職員４名	能登事業者支援センター
第３次	４月	県連職員１名	能登事業者支援センター
第４次	５月	商工会職員２名	能登町商工会
第５次	６月	商工会職員２名	能登事業者支援センター、能登町商工会
		延べ１１名	計４ヵ所（３商工会＋１センター）

※７月からの第６次派遣以降も、全国連からの要請に応じて職員派遣を実施する予定

３　派遣先での業務（※職員１名あたりの派遣期間は一週間単位）

（１）被災地商工会：　現地職員と共同で、管内の被災事業者からの電話・窓口相談対応および災害支援制度の申請支援等を行う

（２）能登事業者支援センター：「のと里山空港」（輪島市）内に設置。全国の商工会・商工会議所から派遣された応援職員と一緒に、県内被災地全域からの補助金制度（なりわい補助金、持続化補助金等）の具体的な申請手続きに関する問い合わせ・相談に対応

４　支援内容

被災事業者から寄せられる相談のほとんどは今回創設された特例補助金（なりわい再建、持続化災害支援枠、伝統工芸など）に関する内容だった。なお支援者側の対応は、震災発生直後から時間の経過とともに以下のとおり変化して行った。

第１フェーズ（第１次）：　特例補助金の創設前。事前に公開されている制度情報をできるだけ収集・分析し、申込みに向けた準備をフォロー

第２フェーズ（第２・３次）：　補助金公募要領の発表後。マニュアルに従い書式説明や対象経費のポイント解説などの初期対応

第３フェーズ（第４次以降）：　補助金の申込受付が増加。要件確認や必要書類チェック、事業計画書のブラッシュアップ等がメイン業務となる

５　応援派遣職員による所感

・想像以上に建物倒壊等が多く、街の復興までかなり時間を要する。今後も継続して支援したい
・困難な状況の中でも早期再開に取り組む被災事業者の方々に敬服した
・公費解体の遅れや土地再整備等の関係で再建に動けないなど、もどかしいケースも多い
・家、事業所、取引先、従業員、自己資金の問題など重層的に苦労されている被災者もいる

6　現地写真

↑公費解体が進まないままの店舗（穴水町）

↑応急工事をした道路（能登町小木港付近）

↑商工会館近隣の商店・住宅（能登町）

↑倒壊した醤油蔵（能登町）

↑震災直後の輪島朝市（輪島市）

↑郵便局も推定 2.7mの津波被害（能登町）

7　今後の職員応援派遣における課題（復命書より）

・発災から５ヶ月経過し、ようやく自宅再建から事業再建に着手できるフェーズに入った事業者が増えてきたことから、今まで以上に応援職員の人数が必要になってくることが予想される

・持続化補助金（災害支援枠）の内容説明から事業計画策定支援まで一貫して携わった。しかし、通常では一週間以内で終わる作業ではなく、申請者に不便を掛けないためには、次の応援職員への綿密な引継ぎ体制などが不可欠

・能登事業者支援センターでは、補助金の対象要件や申請書類で分からない点がある場合、すぐに県へ確認することができたが、商工会の現場ではなかなかそうはいかない。都度確認できるしくみが必要

8　能登半島地震の災害被害に係る義援金（令和６年３月 31 日現在）

商工会、商工連	9, 824, 870 円
県青年部連合会	528, 241 円
県女性部連合会	1, 486, 263 円
合　計	11, 839, 374 円

以上

資料7

第３回能登半島復興支援県民本部会議　（R6.6.21　14:00～14:45）　資料

能登半島地震　災害復旧事業　支援　について　　長野県土地改良事業団体連合会

１　農業集落排水施設（農村地域の下水道）

石川県、富山県、新潟県において 103 か所の下水処理施設が被災

石川県土地改良事業団体連合会が、被災市町村から依頼を受けて、管路、処理施設の被災調査を実施　⇒　全国の土地改良事業団体連合会へ応援要請

長野県土地改良事業団体連合会の支援

管路　■1 次調査　　【1 月 28 日から 2 月 9 日まで、七尾市志賀町へ職員 2 名派遣】

75 処理区　管路全長 396ｋｍ

マンホールの液状化、管路の陥没隆起等の被災状況調査

■2 次調査　　【3 月 10 日から 3 月 23 日まで輪島市、七尾市、能登町へ職員 4 名派遣】

67 処理区　管路延長 160ｋｍ

1 次調査の結果を踏まえ、災害復旧事業対象箇所について

査定設計の基礎調査

■査定設計書の作成 6 月 19 日から 7 月 31 日

被災確定した 50 処理区　100ｋｍ

【職員６名が設計書作成支援　（Ｗｅｂ活用）】

２　農地、農業用用排水施設

石川県の農地・農道・農業用水排水施設の被災状況 5 月 21 日時点　石川県農林水産部

農地：亀裂、法面崩落、沈下、土砂埋設等　1，518 か所

農道：亀裂、破損、陥没等　1，670 か所

水路：破損、崩壊、ずれ等　2，088 か所

ため池：亀裂、崩壊等　351 か所

他、揚水ポンプ、取水工等　341 か所

合計　5，968　箇所

関係市町村が被害額を確認中。【長野県農業土木職員１名　穴水町へ派遣】

査定に必要な測量設計について、民間業者は、道路等公共施設の災害対応のため、農業用水路等の施設まで手が回らず、市町村直営で調査、測量等を行っている状況。

３　災害査定

６月下旬から１２月下旬にかけて行われる。

七尾市の農業集落排水施設（管路）の被災状況

資料8

2024年度「令和6年能登半島地震災害支援基金（第2期助成）」

スケジュール（案）

〈事前準備スケジュール（予定）〉

1．事業内容確定　　令和6年6月24日（月）

※公募要項が固まり次第、HP・チラシ及びプレスリリース・ＨＰ（お知らせ）・X・Facebook・登録団体一斉メールを準備。

〈事業実施スケジュール（予定）〉

1．公募告知　　令和6年7月1日（月）

2．受付期間　　令和6年7月1日（月）～令和6年7月15日（月）※必着

3．審査会関係

①　7月22日（月）　　審査委員へ、応募団体からの助成申請書と審査用紙等を送付

②　7月29日（月）　　審査委員は、審査結果を長野県みらい基金松本事務所へ提出

4．助成団体発表　　令和6年8月上旬（令和6年8月5日（月）予定）

5．助成金交付　　令和6年8月上旬～中旬

6．活動実施期間　　助成決定日～令和7年9月30日（火）まで

7．活動報告書の提出

活動終了の1か月後または令和7年10月31日（金）のいずれか早い期日までに、「活動報告書」（支出証拠書類・参考資料・写真等含む）と「収支報告書」を提出してください。

※活動報告は公共的活動応援サイト「長野県みらいベース」等で外部公開します。

〈事務局の連絡先〉

公益財団法人 長野県みらい基金　松本事務所

〒390-0852　長野県松本市島立1020 松本合同庁舎2階

TEL　0263-50-5535　　FAX　0263-50-6561

E-Mail　matsumoto@mirai-kikin.or.jp

被災地支援 12 団体への助成を決定しました

R6 能登半島地震災害支援基金（第１期助成）

令和６年（2024 年）１月１日に発生した能登半島地震において被災された皆さま、並びにそのご家族の皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

長野県みらい基金では、長野県、日本労働組合連合会長野県連合会（連合長野）、（福）長野県社会福祉協議会、（福）長野県共同募金会と連携し、被災地で求められる緊急対応に加え、被災者の方々のその後の生活再建までを継続的に支援していくため、「令和６年能登半島地震災害支援基金」を立ち上げました。

本基金では第１期助成として、事業公募を１月 29 日から２月 20 日まで行い、次の 12 団体に対し、総額 200 万円の助成を決定しました。

● 助成団体と活動内容

支援分野	助成団体	所在地
炊き出し等　５団体	炊き出し支援チーム HundredHands	長野市
	レフヒオ　ラパス	池田町
	親子で息抜きイタリアン	長野市
	松本市炊き出し隊みらい	松本市
	Japan Unite	上田市
入浴支援　３団体	(福)塩尻市社会福祉協議会	塩尻市
	(福)山ノ内町社会福祉協議会	山ノ内町
	(公社)長野県介護福祉士会	長野市
重機ボランティア　２団体	須坂龍神会	須坂市
	(特非)絆 JAPAN	原村
その他　２団体	清水里山整備協議会　：農家民宿再建・中間支援	安曇野市
	チームうるし　：生活再建・漆芸文化保全	佐久穂町

各事業の詳細は、公共的活動応援サイト「長野県みらいベース」をご覧ください。
https://www.mirai-kikin.or.jp/crown-program/4769/

第２期助成に向けた寄付のお願い

緊急救援や応急対応が一定収束する発災数か月後以降も、被災地の生活再建や能登半島を中心とする地域全体の復興を応援していくためには、継続した NPO やボランティアの活動が必要です。

第２期助成への温かいご寄付・ご協力をよろしくお願いいたします。

https://www.mirai-kikin.or.jp/donation-program/4732/

寄付総額（３月 11 日現在）　1,156,500 円

長野県みらいベース
キャラクターKiffy（キッフィー）

公益財団法人 長野県みらい基金
（理事長）髙橋　潤　　（担当）小松路子、上沼　薫
〈松本事務所〉
〒390-0852　松本市島立 1020　長野県松本合同庁舎２階
電話　0263-50-5535（内線 2814）　FAX　0263-50-6561
E-mail　matsumoto@mirai-kikin.or.jp

資料9

地震防災対策強化アクションプラン（仮称）（たたき台）

2024. 6. 21
長野県危機管理部

1　策定趣旨

令和６年能登半島地震で顕在化した課題を教訓に、本県の地震対策を総点検し、充実・強化を図ります。

2　取組期間

令和６年度から令和９年度（４年間を「集中取組期間」として設定）

〔設定等の考え方〕
- しあわせ創造プラン3.0の計画期間内（令和9年度まで）の効果発現を目指す。
- 取組期間後は、次期長野県強靭化計画において着実に推進

3　基本目標

耐震化の促進、避難所環境の改善等により、
『地震災害死ゼロ』に挑戦

4　策定に当たり重視した事項

今回の地震は、多くの中山間地域を抱える長野県にとって他人事ではありません。
いつ・どこで発生するかわからない大規模地震に備え、以下の事項を念頭にプランを策定します。

- ➤ 能登半島地震で顕在化した課題・教訓に焦点をあて、本県の現状を踏まえ、喫緊の課題に対応します。　※「総花的」にならないように留意しました。
- ➤ 予防（備え）・応急・復旧復興の３つの段階に応じて、10程度のアクションをセット。今回の地震で顕在化した、孤立対策、避難所対応、ライフライン復旧の課題にも取り組みます。
- ➤ 発災から生活再建まで、達成までの時間軸（目指すべき目標）をできる限り明示、県民の皆様と共有します。

※　本プラン策定後、対応すべき課題が新たに判明した場合は、適宜、取組を検討しプランに追加して実施します。

地震防災対策強化アクションプラン（仮称）の５つの重点項目

県民の皆様はもとより、市町村や事業者の皆様と以下の項目を共有し、取組を進めます。

◇　２つの孤立（情報の孤立、物資の孤立）の発生を防ぐとともに、発生時には早期解消を図ります

◇　初動対応において、自助・共助・公助、全ての面でレベルアップを図ります

◇　全ての避難者の健康が維持されるよう、目標期限を定めて避難所ＴＫＢを実践する等、避難生活の"質"の更なる改善を図ります

◇　平時から耐震化の促進に努めるとともに、地震が発生した際の住家の被害認定調査の実施体制づくりを進めます

◇　プラン全体を通して、女性・高齢者・障がい者・外国人などの皆様への配慮に努めます